大　会　規　定

１・チームの登録選手は 11 名以上 25 名以内（ベンチ入りは 20 名以内）とする。
２・出場選手はその大会の登録締め切り日現在、連盟へ登録済みの者に限る。
３・審査証は今年度発行のものとする。
４・オーダー表記入選手 20 名以内およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることができる。但し各種登録証(チーム責任者、監督、コーチ)および審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは、試合開始までに間にあった場合は、審査の上ベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査の上、その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合、試合はできない。
５・組み合わせの若番号が１塁側のベンチ、後番号が３塁側のベンチに入る。また、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
６・監督（背番号 60）、コーチ（背番号 50）は選手と同じユニフォームを着用すること。
７・試合開始時刻 60 分前までに試合場に到着し、直ちにオーダー表を５部、投球回数記録副表３部及び大会初戦の時は、直前大会参加報告書を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。
８・オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をトス（ジャンケン）で決める。
９・試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れない場合、球場責任者と責任審判員が協議し没収試合を宣言できる。
10・試合方法など
⑴ 各試合は 7 回戦で行い、4 回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から 2 時間を超えた場合、新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則 7.01⑷により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデットゲームとする。
⑵4 回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4 回終了時）10 点差、5 回以降 7 点差の場合、コールドゲームとする。
⑶7 回終了後、あるいは試合開始から 2 時間を超えて同点の場合は、新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。
(競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)
11・⑴ 中学生の部投手の投球数は、１日最大 80 球とし、連続２日間で 120 球以内とする。
連続する２日間で 80 球を超えた場合は、３日目は投球を禁止する。また３連投（連続する３日間）する場合は、１日の投球数を 40 球以内とし４連投（連続する４日間）は禁止する。連続する２日間で 80 球を超えた投手、並びに３連投した投手は、登板最終日並びに翌日は捕手としても出場できない。ダブルヘッダーの場合で、２試合に登板した場合は、連続２日間投球したとする。また、１試合のみ投球した場合は、１日の投球とする。
⑵ 打席の途中で制限数に到達した場合は、当該打者の打席が終了するまでは投球を認める。その時制限数を超えた投球数はカウントしない。
⑶ ボークは投球数としない。ノーゲームになった試合も投球数にカウントする。申告敬遠までの当該打者への投球数はカウントする。その他は連盟本部発行の「投球数制限ガイドライン」に基づく。
⑷ 日程の変更（地区大会を含む）等で前大会と連続試合になる場合があるので、すべてのチームは「直前大会参加状況報告書」次大会の最初の試合日に、次大会主催者宛に提出しなければならない。
12・⑴ 監督またはコーチの指示、伝達は 1 試合で攻撃 2 回と守備 2 回の計 4 回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで 1 回の指示、伝達を認める(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない)。
⑵ 守備側の投手に対する指示、伝達が 3 回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
⑶ 内野手が２人以上投手のところに行った時も１回に数える。
⑷ 指示、伝達は審判がタイムを宣言してから「30 秒以内」とする。
13・１イニングで同一の投手に対して指示、伝達が２回目となれば、自動的に投手の交代となる。
その投手は他の守備位置に着くことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。
ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。
14・審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。
15・監督またはコーチが投手に指示などをするときは、マウンドのところで行うこと（ベンチからは駆け足で）。

16・２塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
17・ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
18・投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すこと、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合の迅速な進行の妨げになるため禁止する。
19・各チームは同色ヘルメット７個以上、捕手の規定防具（マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ）２組を備えること。一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く。
20・ユニフォーム、バット、スパイク、グラブ等使用する道具はパートナー企業のものに限る。
21・捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること【SG マーク必須】
22・グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
23・ベンチ内でのスマホ等携帯電話の使用を禁止する。
24・光化学スモッグ発生の場合は、試合及び選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。
25・試合前のシートノックは原則として５分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案してシートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。
26・守備側のチームの監督は球審に敬遠の意思を伝えると投手が投球することなく対戦打者を四球にすることができる（申告敬遠）。
27・各チームは選手審査時に AED 所持の確認を受けること。
AED には有効期限があり、各チームは有効期限に留意して常に正常作動することを確認願います。
28・球場責任者の判断により、試合時間内で２回・４回・６回裏終了時に適宜インターバルをとることができる。

《参考》

野球規則 7.01(4)

7.02(a)によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは、球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

【注】我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

(1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

(2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち又は表の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってホームチームが同点か又はリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

《タイブレーク実施細則》

（１） 特別規則

(イ) 中学生の部は７回あるいは試合開始から２時間を超えて（いずれか早い方）、両チームの得点が等しい時は以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。

(ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打者の者とする。

(ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打者が二塁走者、そして二塁走者の前の打者の者が三塁走者となる。

(ニ) この場合の代打および代走は認められる。

（２）チームおよび個人の記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

(イ)投手記録

・規定により出塁した３走者は、投手の自責点とはしない。
・完全試合は認めない。
・無安打・無得点試合は認める。

(ロ)打撃成績

・規定により出塁した３走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。
・規定により出塁した３走者を絡めた打点、併殺打などはすべて記録とする。